



デア ハーフエン Der Hafen

Nr. 71
2024年7月-9月

ドイツのリニアトランスラピッドの挫折と日本のリニア新幹線

横浜日独協会会長 成川 哲夫

(1) リニア新幹線山梨実験線への訪問

今年の5月、経済同友会で JR 東海が開発を進めているリニア新幹線の山梨リニア実験線を訪問し試乗する機会を得た。山梨リニア実験線は1997年に先行区間での走行試験を開始し、その後2013年8月に総延長が42.8キロに延伸され、現在は時速 500km を達成している。

リニア新幹線に試乗するに際して、2つの記憶が蘇った。1つ目は、ドイツでは1960年代から日本と同じくリニア新幹線トランスラピッドの開発が進められ、1984年に北ドイツに走行試験区間が作られていた。私はドイツ勤務中の1991年にドイチェバンクの招待でこのトランスラピッドに試乗した。速度は時速 450km であったが、揺れの少ない乗り心地に驚いた記憶がある。

2つ目は、1992年旧興銀の審査部時代、名古屋駅の JR セントラルタワーズ開発計画の審査の報告で当時の故葛西敬之 JR 東海社長を訪問した時、葛西氏がリニア新幹線が、いかに日本に必要な計画であるかを熱を込めて語られていたことである。

(2) ドイツリニア新幹線トランスラピッド計画



ドイツのリニアトランスラピッドの開発では1993年までに時速 450 km が達成されていた。こうした成功にもかかわらず、トランスラピッドは高コストと商業的関心の低さに苦しんだ。建設計画は、財政的制約と、1991年に運行を開始したドイツ新幹線 ICE などの既存の高速鉄道との競争により進展しなかった。

一方トランスラピッドは海外では一定の成功を収めた。2004年に運行を開始し、上海浦東国際空港と上海市を結ぶ路線は今も運行中である。しかしながら、トランスラピッドは、2006年にドイツの走行試験区間のラーテンで、人為的ミスによる悲惨な事故が発生し、死者が出てプロジェクトの評判が大きく損なわれた。高い技術的成果にもかかわらず、ついにドイツではこの計画は陽の目を見ることはなかった。ドイツのリニアトランスラピッドが、日本のリニア新幹線計画に与える教訓を考えたい。

一方トランスラピッドは海外では一定の成功を収めた。2004年に運行を開始し、上海浦東国際空港と上海市を結ぶ路線は今も運行中である。しかしながら、トランスラピッドは、2006年にドイツの走行試験区間のラーテンで、人為的ミスによる悲惨な事故が発生し、死者が出てプロジェクトの評判が大きく損なわれた。高い技術的成果にもかかわらず、ついにドイツではこの計画は陽の目を見ることはなかった。ドイツのリニアトランスラピッドが、日本のリニア新幹線計画に与える教訓を考えたい。

①コスト管理

トランスラピッドの主な問題の 1 つは、インフラとメンテナンスの両方の面でコストが高いことであった。日本は、プロジェクトが経済的に実行可能な状態を保つよう、コストを慎重に評価し、管理する必要がある。

②国民および政治的支援

トランスラピッドは、このような大規模なインフラプロジェクトの長期的な成功に不可欠な、国民および政治的な持続的な支援の獲得に苦勞した。日本ではステークホルダーとの透明性のあるコミュニケーションを維持し、メリットを示し、懸念事項に積極的に対処して、継続的な支援を確保する必要がある。

③安全性と信頼性

トランスラピッド試験路線で起きた悲惨な事故は、厳格な安全対応と人的ミス排除の重要性を浮き彫りにした。日本は事故を防ぎ、システムの信頼性を確保するために、包括的な安全対策と人員の定期的なトレーニングを優先する必要がある。

④市場への適応性と競争

トランスラピッドは、ICE などの従来の高速鉄道システムとの競争に直面した。日本のリニア新幹線は、高速性やメンテナンスコストの低さなど独自の利点を強調しながら、既存の輸送ネットワークとの互換性と統合を確保することで、明確に差別化する必要があるだろう。

(3) 日本のリニア新幹線計画

リニア新幹線計画は、日本の誇るべき技術の一つであるが、なお多くの課題に直面しており、この克服には日本の技術立国としての真価が問われている。



①リニア新幹線の技術的達成

リニア新幹線の技術は、1960年代から研究が始まり、1980年代には実験線での試験走行が行われた。このシステムは、従来の鉄道技術を大きく上回る速度と静粛性を実現し、その性能は世界でもトップクラスと言える。

②コスト面の課題

リニア新幹線プロジェクトの最大の課題の一つは、その膨大な建設コストである。初期の段階では、東京-大阪間の全線開通に約5兆円と見積もられていたが、実際のコストは地震対策や環境保護のための追加工事、技術の進歩に伴う設備投資の増加等これを大幅に上回ることが予想される。特に、南アルプスを貫くトンネル工事はコストを押し上げる主要因である。

③環境面の課題

リニア新幹線の環境への影響も、無視できない課題である。特に南アルプス地域では、トンネル工事による地下水の流出が問題視されている。

(4)まとめ

リニア新幹線プロジェクトの推進において、故葛西敬之氏のリーダーシップは欠かせないものであった。彼のビジョンとリーダーシップがなければ、現在のリニア新幹線計画は存在しなかったと言っても過言ではない。彼の死後も彼のビジョンを引き継ぎ、プロジェクトを完成させることが求められている。

リニア新幹線プロジェクトを成功させるためには、コストと環境の課題を乗り越える必要がある。そのためには、

①日本の技術力を象徴する国家的プロジェクトとしての政府の支援が不可欠である。

②環境問題に対する対策を強化することも重要である。地下水の流出を防ぐための技術的対策や、地域住民との対話を通じて、環境への影響を最小限に抑える努力が求められる。

③リニア新幹線の成功に

は、国民の理解と支持が欠かせない。プロジェクトの重要性やメリットを広く伝えるための広報活動を強化し、国民の関心と支持を得ることが必要である。(終)



2024年度(第10回)定時総会報告 コロナ禍後の中長期ビジョンの 更なる展開に向けて

5月18日(土)、横浜市技能文化会館 802大研修室にて、第10回定時総会が対面にて開催されました。

2023年度事業報告(第1号議案)及び2023年度決算並びに監査報告(第2号議案)では、2022年度開催の横浜日独協会の設立10周年記念事業である日独交流大茶会といった大規模イベントの開催はなかったものの、新型

コロナの落ち着いたに伴い、多くの講演会等のイベントが対面で開催されたこと、なかんずく、2024年1月には、駐日ドイツ連邦共和国大使クレームス・フォン・ゲッツェ氏の講演会を盛大に開催することができたこと等が報告されると共に、監査人より、年度末の会計処理の監査の結果、全期間を通じ適正に処理されていたと報告がありました。

2024年度の事業計画(第3号議案)では、2020年7月1日に、NPO法人から、高い公益性を有する認定NPO法人として認証されたことを踏まえ、引続き大きな社会的責任を果たしていくことが確認されました。

これを受け、2021年度に策定された中長期ビジョンに基づき、1.地域を超えた交流・理解の推進、2.ドイツ社会、文化への理解の促進、3.次代を担う人づくりという方針のもと、講演会等のイベント及び他の日独協会、在独日協会、他のドイツ関係諸団体、あるいは各経済団体や学校等の教育機関等の各種団体・組織とのネットワークを拡大し、日独間の絆を強め、相互信頼を深めて行くという事業計画が、また2024年度予算(第4号議案)について報告が行われ、双方とも承認されました。

役員の変更(第5号議案)では、現監事である戸田龍介氏の退任及び後任監事として中野繁氏の選任が承認されました。また2024年4月20日の当協会理事会において提案・承認された、現理事である津澤元一氏の常務理事昇格及び事務局長への任命、並びに大瀬克博氏、齊藤進治氏及び小貫治朗氏の理事退任と、大瀬克博氏の2024年5月18日付での当協会顧問への就任も報告されました。大瀬氏は引続き企業関係を担当することになります。

総会後の新体制

会 長： 成川哲夫
副 会 長： 向井 稔 南雲淑子
常務理事： 津澤元一(事務局長) 大堀 聡
寺澤行忠 山口利由子
理 事： 小島拓人 ロベルト・ゼーリヒ
ハンス・ユードック 中尾尚美 佐藤恵美
藤田 香 北井康一 大治はるみ 西条りみ
岡本博之
監 事： 戸井田裕之 中野 繁 能登 崇
名誉会長： 早瀬 勇(前横浜日独協会会長)
名誉会員： 小熊 誠(神奈川大学学長)
名誉顧問： 山中竹春(横浜市長)
顧 問： 大瀬克博(前横浜日独協会副会長)
顧 問： 瓜谷綱延(株式会社文芸社社長)
顧 問： 織田正雄
運営委員： 井出航平
(事務局長 津澤元一)

監事退任に際して

戸田 龍介

このたび、監事を退任することになりました戸田龍介でございます。実は私は、2010年10月に横浜日独協会が発足した際の、スタートアップメンバーの一人でもあります。設立から2016年まで会計担当の理事を、またその後本年2024年まで監事を務めて参りました。しかしながら、本務神奈川大学の副学長業務との関係上、監事職を続けることがどうしても無理となり、今回退任の運びとなりました。なお、一般会員としては留まりますので、今後都合が許せば各種行事には参加したいと考えております。設立当初は会員が約30名程度の小所帯で、今のような盛況を、さらには認定 NPO 法人にまで成ることを、とても想像できませんでした。設立当初の各種行事は、私の勤務先である神奈川大学で催すことが多かったのですが、これはひとえに、会場代を払う余裕が当時の横浜日独協会にはまったく無かったことに起因しております(笑)。思い出話とは別に、会員の皆様にぜひ知って頂きたいことがございます。それは、会計担当者の苦勞・大変さでございます。私が担当だった牧歌的な時代と異なり、現在の会計担当者には多大な職責・責任のしかかっております。認定 NPO 法人格を維持する上でも、会計業務の遺漏なき遂行は肝となっております。どうかこの点のご理解を切に頂戴したく存じます。今後の当協会の益々のご発展を祈念しつつ、監事退任の挨拶とさせていただきます。

理事退任に際して

小貫 治朗

2020年5月に、理事を拝命し、協会のお手伝いをさせていただいておりましたが、2023年4月から家人の難病(パーキンソン病)が進行して、在宅での寝たきりの療養になり、自宅をプチ病院化して小生が看護することになりました。外出もままならない、病人中心の生活は、協会の活動にも支障をきたし、成川会長はじめ、皆様にご迷惑をかけることになりましたので、勝手ながら理事を退くことにしました。短い期間でしたが在任中、お導き、お支え下さった皆様には、心より感謝申し上げます。

協会の諸活動には、他では得られない素晴らしい魅力があり、啓発されることも多いので、今後とも、日程の折り合いさえつけば、できる限りイベント等には参加したいと思っておりますし、また、皆様との交流が続けられることを念願して止みません。

法人組織づくり等に貢献

齊藤常務理事が退任

名誉会長 早瀬 勇

長年横浜日独協会を事務面から献身的に支えた齊藤進治常務理事・事務局長が先の総会をもって退任されました。齊藤さんの功績は、事務体制の整備、法人格の2度にわたる格上げや財政基盤強化など、計り知れないものがあります。苦勞を間じかで見えてきた創立会長として心から感謝申し上げます。

初めて齊藤さんとお話したのは YC&AC (山手の外人スポーツクラブ)でのオクトーバーフェストでした。杯を重ねるうちに、彼がドイツのベートル(Bethel:福祉と医療のメッカ)で2年働き、いま川崎の福祉法人の責任者であることを知りました。ドイツ人の生活や習慣の話になると目が輝き、何か人間的なものを感じました。

お人柄に感心したのは、2016年フランクフルトでの横浜・フランクフルト都市提携5周年記念式典と一緒に出席した時でした。彼の手荷物がフランクフルト空港で行方不明になったのですが、式典に支障が出ないよう個人的な心配事は伏せて出席していたことが後でわかりました。信頼感は高まりました。

単なる任意団体でも国際交流は出来ます。しかし、横浜に日独協会の設立を促したシュタンツェル元駐日大使が演説したように、「実のある日独交流」を実現するには市民との協働で社会的意味がある日独交流が求められます。もう一人の創設の恩人である林文子横浜市長(当時)が調印式の後、私に言った言葉が忘れられません。「国際交流はお祭りではだめですね。横浜の経済を支えているのは中小企業です。中小企業が裕福になって、市に税金が入らなければ文化にも、福祉にも、国際交流にもお金が回りませんからねえ。」この言葉も任意団体からの脱却を促しました。

法人格が得られたことで、横浜市の外郭団体とも対等に中小企業支援の事業を主催できましたし、あらゆる面で社会的信用が増しました。認定 NPO 法人は全国の NPO 法人の約2%で、寄付控除もある一方、市が定める運営面、経理面での基準も厳しさを増すのは已むを得ません。今の一応の有効期限は令和7年6月30日です。市民との協働による我々の日独交流がますます盛んになり、市民生活がより豊かになることが期待されています。

齊藤進治さん、有難うございました。これからも会員として当協会にご助言ください。

「ツーリズムよもやま話」

～SDGs ツーリズムから「心に刻む旅」まで～



理事 大治 はるみ

3月16日、千原嗣朗会員によるツーリズムについての講演を拝聴しました。JTBに43年勤務され、世界50カ国、120都市以上を訪問された千原氏ならではのお話は大変興味深く、自分の大切な趣味である旅行の意義について改めて考えさせられました。また日々深刻化しているオーバーツーリズム（観光公害）の問題は大変タイムリーでした。以下、お話の要旨の6点です。



1) 「旅 (travel/住居を離れる)」、「旅行 (tour)」、易経にある“国の光 (佇まい) を観る”に由来する「観光」、そして全ての旅行を対象とした「ツーリズム」の定義を改めて認識。

2) 「ツーリズム」には、環境に配慮したエコツーリズムや・メディカル・スポーツ・コンテンツなど様々なツーリズムがあり、地域の経済効果や活性化、生活環境の向上、生態系の保護等のメリットがある。

3) 「SDGs ツーリズム (持続可能な観光) とは公共機関を使う等、環境に配慮したもの。



2022年のSDGs達成度は、北歐3カ国に次ぎ、ドイツは4位。日本はアジアで1位なるも、世界的には21位。観光産業はコロナ前は世界全体の輸出額の3位を占め、合わせて観光関連の学校、学部が増えている。金沢市はSDGsモデル事業都市として、市民と観光客双方の“幸せ”を実現した。

4) 「オーバーツーリズム (観光公害)」は昨今大きな問題になっている。増加する観光客のニーズと地域住民の生活や自然環境の調和を図り、両者が共存していくことが肝要。

ドイツのロマンチック街道はオーバーツーリズム対策のお手本で、旅行者の分散化などを実施。

5) 「2way ツーリズム」とはインバウンドとアウトバウンド双方向の交流の意。

国際感覚の向上や相互理解の促進を図る。国際姉妹都市交流等、アウトバウンドの重要性。

コロナ以降、リアルとオンラインのハイブリッド型の交流が増加する可能性がある。

6) 「心に刻む旅」とは単なる観光ではなく、明確な目的を持ったツアーで、例えばダーク (被災・被害者の悲しみを共有)、ピース (ヒロシマなどで平和を共有)、ホープ (フクシマなどで教訓を学ぶ) ツーリズムなどがある。日独とも学校の平和学習でそれぞれヒロシマや強制収容所の見学が行われている。

「ツーリズムは平和へのパスポート」という国連のスローガンがあり、普段からの草の根交流が大切とのこと。これは横浜日独協会の趣旨にも合致しており、日本から送る高校生やドイツ人高校生の受け入れ中心に、今後の交流の重要性を再認識しました。

私事ですが、2018年にプラハの国立劇場での2日間の日本文化祭に参加しました。様々な日本の伝統芸能およびチェコの民族舞踊の上演が、日本料理と茶道を嗜むチェコ人の紹介と合わせて、現地のTVでも報道されました。生け花や書道等も展示され、両日とも劇場満杯の大盛況で、駐チェコ日本大使やプラハ市長ご臨席の交流レセプションもあり、自分が目標としてきた邦楽と文化交流の結びつきが実現した印象的な演奏旅行でした。

千原さんには、7月の寺澤先生主催の京都・四国旅行の企画で大変お世話になっております。神戸日独協会との交流も盛り込まれ、「心に刻む旅」となることを大変楽しみにしております。



「生活の中に芸術を」

フェイラー創業者・山川和子氏の講演を聴いて

顧問 大瀬 克博

4月の月例講演会は山川和子氏の講演「生活の中に芸術を」でした。演題は山川氏が創出したフェイラーのコアコンピタンス。以下、講演の概要です。

1. 来歴

17歳でソ連に渡り東西冷戦下のモスクワで3年間を過ごします。帰国した1964年、東京オリンピックでロシア選手団の通訳をつとめました。1967年に渡仏、パリの香水店リッツで働きビジネスを学びます。モスクワとパリ、一流の文化と芸術に触れた生活は後のフェイラービジネスに役立ちます。



リッツ香水店の経営者一族アーロン・メロンと1970年に日本で結婚。夫妻で会社モンリーブを立ち上げます。日本のことは何も知らない夫と若い女性、すべてゼロからのスタート、数々の苦難を乗り越えて会社は成長、フェイラーを世界ブランドに押し上げました。会社を始めて37年後の2007年、総合商社に事業譲渡をしました。

2. フェイラーとの出会い

パリ時代に訪れたベルギーの避暑地クノックの店で見たのがフェイラーのタオルです。色柄の素晴らしさに感動し持ち金をはたいて買いました。帰国したある夏の日、父の親友で後の三越社長・市原晃（あきら）氏の来訪があり、オシボリを添えスイカを出しました。オシボリはベルギーで買ったタオル、市原氏が「素晴らしい。これは綺麗だね！」と言われたのです。これはビジネスになると直観、レシートを探しベルギーの店に電報を打ち、ドイツのフェイラー社が製造元と分かったのです。フェイラー商品の販売を始めます。スーツケースにサンプルを詰め込み北海道から九州まで販売行脚しました。売れない日々が続きます。

3. 二次加工品

ある日、母親が姫路から上京します。自作の手提げを持っていました。素材はフェイラーのタオルです。そのアイデアから二次加工品へチャレンジすると、これが大好評。フェイラーから素材をロールで仕入れ日本で加工することにします。素材の色柄は日本でデザインしてドイツで手織りました。



4. 会社ビジョン

二次加工品の販売で売上は増大し社員200名規模になり、会社のビジョンを作ります。それが“Be together”、会社とフェイラー社、経営者と社員、会社と仕入先、双

方が対等の立場で協働する理念です。仏教語の「感応道交」の教えに通じます。もう一つが“暮らしの中の芸術品”の実現です。無形力・インタンジブルパワーがビジネスを成功に導きました。



売上が成長する中で低価格類似品が出現しますが、価格を下げて対抗する戦略は論外でした。「単に商品売るのではなく芸術品を売る」を徹底し差別化を図りました。極上の気品を商品に持たせ、会社全体の芸術性も高める努力をしました。

5. 報恩事業

2005年、住友商事にM&A。同社は信頼性、創造性、芸術性、技術性など、築き上げた無形資産、インタンジブルパワーを正しく高く評価されました。私とアーロンはフェイラー社に縁をもらいビジネスを拡大したのです。その恩返しとして同社地元のホーエンベルク市で高齢者介護施設、山川高齢者ホームYSH、の建設を決めました。施設は日本のデザインを取り入れ、「触れ合いコミュニティーセンター」を併設、75本の桜が植えられた庭園は、市民憩いの場にもなっています。プロジェクトは2017年に完成しました。それに続く第2のプロジェクトが2023年に完成した「さくらスポーツ&ヘルスパーク」、健康増進施設です。ここはバイロイト市など近隣の来園者も増えています。



第3のプロジェクトが始まっています。12,000㎡の敷地にバリアフリーの高齢者集合住宅を24棟建設します。太陽光そして地熱を利用した環境調和型エネルギー供給も計画されます。これはホーエンベルク市民が安心して暮らせる街づくりの仕上げです。

「生活に芸術を」に象徴される日本文化とドイツの手織り工芸が融合し世界ブランドのフェイラーを生みました。これは柳宗悦が追い求めた「工芸の美、生活の美」に通じる、筆者が持った印象です。お互いの強みを活かした共同開発そして親善、日独交流のモデルケースと考えます。

この6月に山川和子著 ENN（縁）がドイツで発売されました。日本の文化、伝統そして同氏の経営哲学がドイツで広く知られることを期待します。

5月18日

「池坊いけばなとその歴史」を拝聴して

副会長 南雲 淑子



歴史的にいけばなには多くの流派がありますが、池坊は華道の起源であり1400年の歴史があります。池坊は京都六角堂（頂法寺）にあり、遣隋使として中国大陸に渡った小野妹子が初代住職を務め、朝夕仏前に花を供えました。それが池坊いけばなの始まりです。

当日は風間先生がお持ちの貴重な「池坊専応口伝」の写しを見せて下さいました。「池坊専応口伝」は、室町時代後期に池坊専応により著された花伝書です。この花伝書が出来たことにより、池坊いけばなの華道理念が確立され、華道を学ぶ者たちの心のよりどころとなりました。



専応は、いけばなは賞玩するだけでなく枯れ枝にも深い思いを授け、いけばなに携わることによって精神的な浄化（さとり）を得ることが出来ると主張し、華道として昇華されました。また、1624年に後水尾天皇が誰でも参加できる「立花会」を多い時には3日おきに開いていた、という記録もあります。

外国で紹介されたいけばなとしては、1899年に建築家コンドルがいけばなをヨーロッパに紹介しました。そして1968年には川端康成が「池坊専応口伝」をノーベル賞記念講演で紹介しています。

風間先生ご自身も2012年にベルリンの高校で、2014年にはアメリカナサの博士達にいけばな指導をなさるなど、外国人へのいけばな紹介に尽力なさっていらっしゃいます。

次に実際に立花を生けながら説明をして頂きました。このために各枝、花には、丁寧に生け花用の針金を巻き、

立花にふさわしい角度にまげるといふ、2時間の下準備をして下さっていました。花器には立花がまっすぐ立てられるように土台がしつられてあり、菖蒲、百槩（びやくしん、いぶきの1種）、松、夏はぜ、そけ、などを次々に生けられ、素晴らしい立花が完成されました。いけばなを生ける過程を見ることにより、芸術的な美の創造を理解し、印象深い感動が会場に広がりました。その立花をスクリーン前（いけばなは壁の前に置く前提ですので）に置きますと、思わず全員が前に出て写真を撮り始めましたので、立花の前で全員写真を撮りました。



さらに質問の時間には男性の方3名が、いけばなと風間先生のお話に感動し、興味深かったことに加えそれぞれの質問をなさいました。



こうして風間先生の熱意溢れる講演を通して、池坊華道の一端を理解することが出来ました。当日いらっしゃれ

なかった方も三溪園にての大茶会で、玄関及び各部屋に飾られたいけばなはご覧いただいていますので、その芸術的な美しさは覚えていらっしゃるとおもいます。

フランクフルト独日協会派遣 トーマス・ハルテルさん

(高校生作文コンテスト委員会 佐藤 恵美)



かねて会報でお知らせしました、フランクフルト独日協会 (DJGF) から的高校生作文コンテスト優秀者トーマス・ハルテルさん (現ミュンヘン工科大学学生) が来日し、4月10日にDJGFのクノープラオホ副会長と共に当会で歓迎会を開催しました。南雲副会長宅に3泊し、11日は向井、南雲両副会長と鎌倉を、12日は山口常務理事ご夫妻にみなとみらいを案内していただきました。古都の魅力、現代の横浜の魅力、双方が大きなインパクトを与えたようです。

13日に佐藤が品川にお送りしましたが、その時も高層ビル群に感嘆の声を上げていました。日本でのインターンシップも考えている模様で再会が楽しみです。長文の感想文を送ってくれているので、またホームページでご紹介したいと思います。



ホームステイゲストをお迎えして



副会長 南雲 淑子

4月10日より13日まで、フランクフルト独日協会よりトーマス君という好青年を我が家にお迎えしました。

10日は、歓迎夕食会がみなとみらいにて開かれ、フランクフルト独日協会のクノープラオホさんも参加され、横浜日独協会からはホームステイ担当の佐藤さん始め多数の方が参加下さり楽しくトーマス君を歓迎しました。

11日は、まずモノレールにて江の島へ。トーマス君はモノレールに興味津々で、駅に入ってくる電車を見事に

写真に収めました。江の島では、残念ながら1番目的の富士山は春の霞ではっきり見えませんでした。タワーに上り360度の素晴らしい景観に感激し、海と陸の景色を楽しみました。桜や花壇の花々が美しく、お寺や神社にもお参りしました。

午後には鎌倉に移動し、桜に映える最高の大仏を見てからランチには天ぷらそばを食べ、浄妙寺に向かいました。



ここでは静かな雰囲気の中、日本庭園を見ながら季節の和菓子 (豊島屋製の練り切り) とお抹茶セットがいただけます。いつも空いていて穴場と言って良く、日本文化に触れたい外国人には必見の場所です。ここで抹茶を頂きゆっくり過ごしました。

その後、向井さんと合流し向井さん運転の素敵なお車で逗子方面まで快適ドライブ! 夕食には回転ずしを楽しみ、おしゃべりに時間を忘れました。



12日は、山口ご夫妻にみなとみらいを案内していただきました。船に乗ってみなとみらいを海から眺めたり大観覧車に乗っ

たり、みなとみらいを満喫する一方、メインイベントはカップヌードルミュージアムでマイカップヌードルを作ったことだそうです。このみなとみらいのご案内は、トーマス君のみならず山口氏にとっても初体験だったそうで、みなとみらいを知る良い機会だったようです。



夕食には私と孫娘の未蘭も合流し、萬珍楼の美味しい中華料理を堪能しました。実は未蘭は学校を終えて初日から夕食をご一緒させていただき、トーマス君のお隣で一生懸命お話ししていました。



トーマス君はどの人ともどの話題でも真摯に語り合い、日本についても熱心に質問して下さいました。こんな素晴らしい青年をお迎え出来て、ホームステイ受け入れをして良かったという気持ちでいっぱいです。

13日の最後の朝、佐藤さんのお宅までお送りし、佐藤さんがクノウプラオホさんの待つ東京のホテルまで送っていただきました。

トーマス君、楽しい日々をありがとうございました。

文化委員会企画

教養講座「日本文学逍遥」

【日時】原則として毎月第1水曜日 13:00～14:30

- ・ 7月 関西・四国方面旅行のため休会
- ・ 8月 休会
- ・ 9月 4日(水) オンライン講座
- ・ 10月 2日(水) オンライン講座

【講師】寺澤行忠常務理事（慶応義塾大学名誉教授）

ドイツ語講座のご案内

理事のハンス・ユーデックさんが、元住吉にある川崎国際交流センターで月に2回、ドイツ語の少人数のクラスを教えています。メンバーが減ってきていますので、このクラスでは引き続き新しいメンバーを募集しています。「とても面白い授業なので、終わってしまったら残念です。YJDGのメンバーの中にも、このような授業に興味を持つ人がいることは想像できます。レベルはA2とB1です。文法よりも、話す練習が重要です」と、ユーデック理事からご連絡がありました。

・ 隔週木曜日 月2回 18:00～1時間 4,500円

・ 連絡先：山田秀子 Tel 080-1091-1409
hideko.k-a-t@docomo.ne.jp

事務局のお手伝いして頂ける方を募集しています。

会計その他様々な事務的作業の補助です。専門知識は不要です。リモートでの作業も可能です。ご興味がある方は、電話又はホームページのお問い合わせフォームからご連絡ください。https://jdgy.sub.jp

横浜日独協会 動画チャンネル！

エネルギー問題等、タイムリーな話題のプレゼン動画を公開！当協会HPにリンクがあります。



編集後記：梅雨も来ないうちに、今年も半分が終わりました。月に一度のイベントも興味深い講演が続いて、会員だけでなく大勢の皆様楽しんでいただいています。講演を企画される理事と関係者の方々に感謝です。今月は関西・四国方面旅行が実施されます。神戸の日独協会の皆様との交流も楽しみです。（山口）

イベント予定

■ 9月 イベント：

- ・ 日時：9月21日(土) 15:00～16:30
- ・ 会場：未定
- ・ 講師：高雄 綾子氏
フェリス女学院大学准教授
ベルリン自由大学博士課程留学
専門は環境教育、ドイツのESD (Education for sustainable development)
- ・ 演題：「教育コンテンツとしてのドイツ(仮)」
- ・ 参加費：1,000円

会費納入・ご寄附のお願い

2024年度の会費の納入がまだの方は、前号同封の払込取扱票でお振込ください。下記口座へのお振込みにも受け付け致します。ご寄附も宜しく願い致します。

◆ 郵便振替口座：00240-3-138647

◆ ゆうちょ銀行：店名〇九八（ゼロキュウハチ）
番号2441596

◆ 横浜銀行：横浜駅前支店 普通6416667

訃報



会員でもあり、ドイツでも活躍されたオペラ歌手の島村武男氏が、6月6日にご逝去されました。ご生前にいただいたご厚情に深く感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

<新入会員>

- ・ 高雄 綾子 様 (4月入会)
- ・ 小畑 徳彦 様 (5月入会)
- ・ 中野 繁 様 (5月入会)
- ・ 篠塚 剛 様 (6月入会)



Instagram

認定NPO法人横浜日独協会会報 発行 2024.7.1 (第71号)

所在地：〒247-0007

横浜市栄区小菅ケ谷 1-2-1 地球市民かながわプラザ

NPOなどのための事務室内 事務局：津澤

Tel: 080-7807-7236

会報編集責任者：山口 利由子

E-Mail : riyuko.yamaguchi@gmail.com

横浜日独協会ホームページ https://jdgy.sub.jp



法人会員

株式会社文芸社	ウインクル株式会社	ボッシュ株式会社	トルンプ株式会社	公益財団法人登戸学寮
ワインブティック伏見	モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合		横浜国立大学一成長戦略研究センター	
株式会社コトブキ	神奈川大学	ケルヒヤージャパン株式会社	一般社団法人如水会 横浜支部	日独産業協会(DJW)
キャリア・デベロプメント・アソシエイツ(株)		富士・フォイトハイドロ株式会社	日本バウシュ株式会社	